

小笠原を舞台に 生物多様性考える

前田道路と東京農大
現地プログラム開始

前田道路は小笠原を舞台に、東京農業大学との協働で生物多様性に関する環境教育プロジェクトを進めている。複数回の勉強会を経て21日に同社小笠原営業所（東京都小笠原村父島奥村）で学生参加の現地プログラムを開始した。

同社は小笠原村父島に営業所と工場を構え、本土復帰当初から道路舗装工事に携わってきた。小笠

原には世界自然遺産を含む自然豊かな環境と希少な動植物が生息。ゆかりのある地で「環境保全」や「生物多様性とインフラ整備の在り方」を考えてもらおうと環境教育プロジェクト「Bonini Infrastructure Initiative」を立ち上げた。

産学連携で次代を担う技術者を育成するため、5月から東京農業大学で参加者を募集。国際農業開発学科農業環境科学研究室の学生5人の参加が決まった。5月上旬に大学内でキックオフミーティン

グを開始し、9月中旬までに小笠原や生物多様性に関する勉強会を4回開催してきた。

現地プロジェクトでは小笠原諸島の自然に触れながら環境保全やインフラ整備の取り組み事例について東京都小笠原支庁などで講義を受ける予定だ。同社は環境教育プロジェクトで得た知見などを踏まえ、若手技術者の環境意識の向上などにつなげる方針。産学連携で生物多様性の保全や環境配慮型舗装技術の開発にも取り組んでいく。

学生との勉強会（前田道路提供）

